



おおの誠一郎

議会報告と提言

駅名改称問題 を問う！

連絡先

龍ヶ崎市宮渕町61
TEL 0297-62-1135
www.ohno-seiichiro.net
info@ohno-seiichiro.net

駅名改称 賛成？反対？

佐貫駅から龍ヶ崎駅への駅名改称問題、その費用は5～6億円！ その効果は？
看板かけ替え（駅名改称）より中身で勝負すべきでは？

市による 試算

経済効果は1億6,500万円？

その算出根拠として市が挙げているのは・・・

① 記念イベントの開催⇒6,000万円

「商業まつり」（主催者発表6万人）規模の駅名改称イベントを開催すると、来場者が1人当たり1,000円を消費したとして、6万人×1000円＝6,000万円の効果（影響度調査）があるというが疑問である。これまでに開催されたイベントの経済効果はどうだったのか？

② 平日の経済効果⇒7,526万円

龍ヶ崎市に佐貫駅を利用して通勤・通学している人がもたらす効果。通勤者1,180人、通学者363人合計1,543人（H22年国勢調査）

・通勤者1,180人×52,860円（牛久～佐貫間の定期代）＝6,237万4,800円

・通学者363人×35,550円（牛久～佐貫間の定期代）＝1,288万6,500円

※通勤者6,237万円＋1,289万円＝合計7,526万円の効果が（JRに）ある（影響度調査）というのだが、この経済効果は、「龍ヶ崎駅」に改称した時の「増加の経済効果」ではなく、平時の「佐貫駅」のJRの経済効果でしかない。

……このような試算は根拠に乏しいどころか、あってはならない誤りである。

③ パブリシティ効果⇒1,402万円

駅名改称が話題になり、新聞等に無料掲載分されたものを有料で支払った掲載料とみなしたパブリシティ効果が1,402万円だという。



(表面から続く)

その内訳は、茨城新聞(9回掲載) 333万、読売(4回) 497万、朝日(3回) 日経(3回) 毎日(3回)。各社に掲載される想定回数、紙面の大きさ(行数)に各社の有料料金を掛けて算出したのが1,402万だということだ。

佐貫駅周辺地域整備基本構想

H27年度予算で、「牛久沼などを含む佐貫駅周辺の土地利用等について基本構想を策定する」というが、策定だけでなく、佐貫駅周辺の整備を行い、中身を充実させてから、駅名改称問題についての市民の合意形成を図るべきではないのか？

駅名改称は「全市民」の問題

- ★ 駅名改称に要する費用5～6億は、龍ヶ崎市の中身を充実させることに用いてこそ「血税が活きる」、「血税が生きる」ことにつながる。全市民が考える問題である。
- ★ 福祉(子育て、高齢者、障害者に対する支援策等)、教育、スポーツ・文化振興策、農業、商業、工業の活性化策、環境問題等。お金はいくらあっても足りない。
- ★ 「市民との対話」、「市民参加」、「市民と行政との協働のまちづくり」を目指すことこそ「血税を活かす」、「血税を生かす」ことにつながる。

今こそ市民が主役の市民自治龍ヶ崎に — おおの誠一郎活動方針

農商工活性化

- 地場産業の育成・支援
- 起業・NPO法人の設立・支援
- 環境保全型農業の確立---地産地消の促進、直売所
- 中心市街地活性化・新都市拠点開発・企業誘致推進

福祉

- 障害者自立支援の施策 --- 就労・住環境・医療の整備
- 子ども・子育て支援事業展開
- 高齢者の健康・生き甲斐づくり
- 介護体制の充実
- 市民後見人の養成・普及

行財政改革

- 公平・公正・透明な市政運営
- 市長・議員等の報酬カット
- 議員定数の削減
- 財政健全化の推進
- 行政・市民のパートナーシップ事業の展開

環境問題

- 地球にやさしい街づくりプランの推進
- ゴミ減量、生ゴミ堆肥化、循環型社会の実現
- 子どもたちのための環境改善。体験教育の拡大実施

教育・文化

- 地域と学校が一体となって進める教育の街づくり
- スポーツ・文化活動支援事業
- 空き教室の利用等、学校施設の有効活用促進

おおの誠一郎の横顔

- ・龍ヶ崎市宮沢町に生まれる
- ・龍ヶ崎第一高等学校卒業
- ・中央大学法学部卒業
- ・龍ヶ崎市議会議員
- ・龍ヶ崎市バレーボール連盟会長
- ・有機農業研究会会長
- ・「味噌作り体験」(2000年～現在)
- ・「アグリフェスタ」(2000年～現在)
- ・「元気アップ直売所」(2005年～現在)